

令和8年8月28日

調 査・研 修 報 告 書（会派個人用）

会派名：NEXT

報告者：國利知史

実施場所：山梨県市川三郷町	実施日：令和8年8月26日～27日
■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など） 会派NEXTでは以前より、本市の豊富な自然環境、特に森林資源を活用した観光に着目してきた。その中で、現在広島県が進めている県北部の豊富な森林資源を活用したマウンテンバイクの推進についての事業に関して、本市における導入の可能性を調査するため、全国でも先進的な取り組みを行っている山梨県市川三郷町の視察を行った。 視察内容としては、現場視察の後、広島県担当課職員、市川三郷町担当職員及び事業者、県と共同した取り組みを進めている安芸太田町長及び担当課職員と情報交換を行った。	
■参考とすべき事項 ★広島県の取り組み状況 以前からサイクルツーリズムの推進を行っており、しまなみ海道などに代表されるように瀬戸内沿岸部へのサイクリスト誘致やサイクリングの聖地化に成功しており、広島県の観光の柱の一つとなっている。今後は中山間地域の活性化を目指し、豊富な森林資源等を活用してマウンテンバイクの取り組みを推進し、県北部の中山間地域へのサイクリストや観光客の誘致をはかり、地域の活性化につなげるとしている。 ★市川三郷町がマウンテンバイク活用推進事業に取り組んだ経緯 市川三郷町は古くから富士山登山の玄関口であったが、登山道の整備などが十分にできていない状況であった。また、現在マウンテンバイク事業のベースとなっている市川公園は利用率が低く、管理も不十分で整備ができていない状況であり、獣害被害やごみの不法投棄も多く発生していた。また、維持管理に要するランニングコストも大きな課題となっていた。 そのような状況の中で、マウンテンバイク愛好家を中心に組織する株式会社山守人と市川三郷町が「マウンテンバイクを使った包括連携協定」を締結し、現在は山守人が指定管理を受け、市川公園をマウンテンバイク活動の拠点に整備し維持管理している。 山守人が市川公園を管理するようになり、ごみの不法投棄や獣害被害は減少し、公園の環境も改善した。また多くのマウンテンバイク愛好家やキャンプ利用者が訪れるようになり、観光振興に寄与するとともに、地元住民もウォーキングコースとして利用するなど賑わいが生まれている。また欧米ではマウンテンバイク愛好家が多いこともあり、インバウンド客の大幅な増加につながっている。 ベースとなっているのは市川公園であるが、周辺の山々にもマウンテンバイクが走れるコースを整備している。コースは新たに新設するものではなく、古くから富士山登山で使用されていた道や、生活で使用していた所謂「古道」を活用している。マウンテンバイク専用コースではなく、一般の登山者も利用できるようになっており、マウンテンバイカーと登山者が共存できる環境を整えている。当初登山者や猟友会とのトラブルが心配されたがこれまで一度もトラブルは起きていない。 市川三郷町は県有林が多く、ある程度スムーズに整備が実現したが、民地との課題などは、地権者や地元の理解を求めるために、町会議員などを通じて地元住民に対しての説明会を実施した。	

当初は山守人と町建設課職員が協働して古道の整備を行ったが、現在は山守人やマウンテンバイカーが補修等を行っている。マウンテンバイクは車輪が轍や登山道を痛めることは無く、月に数回の走行であっても、道の状態は保たれやすく維持管理の負担も少なくなっている。

今後の展開としては、観光振興だけではなく、防災面でもマウンテンバイクが活用できるような包括連携協定に変更し、消防団や消防署員にマウンテンバイクを体験してもらい防災面でも活用できる体制を整える。

★広島県安芸太田町の取り組み状況

広島県内で先行して事業に取り組んでいる。取り組みの現状としては、サイクリング活用基本構想の策定を行い「安芸太田 MTB たたら古道トレイル構想」を打ち出している。

今後の取り組みとしては、ハブ拠点を整備し、それぞれのコースと連携させる予定である。広島県がコンサルを委託している「山守人」が山林調査やコース選定を行い、現在はコースを絞り込んでいる状況である。使用するコースは山梨県市川三郷町と同じく「古道」であり、新たに大掛かりな工事で新設するものではない。安芸太田町の古道は、古くからの道ではあるが、ある程度状態が良い古道が多く、活用できる道が多く残っている。

課題としては、民有林が多く、地権者の理解が必要となる事や、低い山が多いため、距離が短くなるなどの課題もある。

今後は、マウンテンバイクの活用を推進すると同時に「たたら文化の歴史」も含めて観光の推進を進める計画である。

■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか 等）

広島県の今後の計画として、県北部の豊富な森林を活用したマウンテンバイクの取り組みを推進し、サイクリストや観光客を県北部に誘致し、中山間地域の活性化につなげるとしている。

マウンテンバイクの市場規模を世界的に見るとロードバイクの市場規模よりも圧倒的に大きい状況にあるが、我が国においては十分に普及していないことから、今後、成長産業として大きな期待が寄せられている分野である。今後の市場の状況や、広島県の計画を踏まえると、マウンテンバイクを活用した観光コンテンツの構築に向けて取り組むことは、本市にとって非常に大きな効果を生み出すと感じる。しまなみ海道のサイクリング事業は取り組みを始めてから10年以上かけて、今日に至っている。本事業は取り組みが始まったばかりではあるが、大きな観光産業へと成長する可能性を大きく含んでいるため、本市として早い段階から計画に参画しておくべきと感じる。

本市は広大な森林資源を有しており、その豊富な資源を最大限に活用できるマウンテンバイクの取り組みは、本市が進める「観光の基盤産業化」には非常に効果的である同時に、他の産業との連携した取り組みを実施することで、観光消費額の増加を目指す本市においては、林業との連携という観点からも非常に大きな意味を持つ取り組みと考える。

国においては、マウンテンバイクの活用促進が明記された「第3次自転車活用推進計画」が令和8年5月に閣議決定されており、県が主導してマウンテンバイクの活用推進を行う本事業は全国初の事例として、国も大きな期待を寄せている状況にある。

マウンテンバイクの活用推進は広島県主導の事業であり、国も注目する全国初のこの取り組みを、市として推進していくことで、全国の他の地域にはない優位性を作り上げ、「観光の基盤産業化」の実現に大きな効果をもたらす取り組みと考える。